

# 大学図書館問題研究会京都地域グループ

## 第 39 回京都地域グループ総会議案

### 【第 1 号議案】

2015 年度（2015.7～2016.6）活動総括及び 2016 年度（2016.7～2017.6）活動方針

#### 1. 2015 年度活動総括

##### (1) 研究交流活動

2015 年度は「会員の発表の場としての研究交流活動の企画」「会員の知的交流の場であると共に、研究交流活動そのものが非会員への広報でもある(組織拡大)」を目標に以下の 3 つの企画を実施した。開催時期に偏りがあったことは反省点である。次年度は気楽に参加できる企画も含め、検討していく必要がある。

##### 1) 電子ジャーナルはこれからどこへ向かうのか？

～深田氏・林氏による学術情報動向に関する講演会～

開催日時：2015 年 7 月 18 日(土) 13:30-16:45

会場：キャンパスプラザ京都 2 階ホール

講師：

深田良治氏：ケンブリッジ大学出版局（元エルゼビア・ジャパン社長、元シュプリンガー・ジャパン社長等）

林和弘氏：文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター長補佐（元日本化学会学術情報部課長、SPARC Japan 運営委員）

参加費：大図研会員は無料（非会員は 500 円）

参加者：64 名

参加者の声：講師の講演がとてもまとまっていた初心者でもとても分かりやすかった。

英語のジャーナルメインの話だと思っていましたが、日本語であることの重要性、意味について示唆する内容のお話がきけて良かった。

大きな話も多く途方もなさに想像が追いつかないところもありましたが、刺激がありおもしろかったです。

オープンサイエンス、研究活動そのものの変化について MOOC の話がスライドで出ていましたが、そちらについてももう少しお話が聞きたかった。

質疑応答でも知らなかった関心のある分野の見解などお話いただき、本当に勉強になりました。

##### 2) 学びの空間「キャンパス全体がラーニング・プレイス (Commons)」の実践

開催日時：2015 年 8 月 1 日(土)13:30-17:00 (13:00 開場)

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

講師：河合 孝一郎氏：立命館大学 OIC 教学課コモンズ担当

参加費：無料

参加者：42 名

参加者の声：ラーコモの中に図書館を配置するなど、検討案なども含めて紹介していただいたので、さまざまな可能性に気付かされた。

キャンパスの設計からコモンズという意識がとてもよく感じられました。これだけ大きいキャンパスで垣根がないロケーションはすばらしい。

男性用トイレにベビースペースがある大学ははじめてです。  
キャンパス作りへの思いが良く伝わり有意義でした。  
学習空間として、寺子屋、お茶の間がよいということにはまったく同感です。  
サインにとっても気をくばって作られているのがステキでした。  
ここまでオープンにできていることに驚きました。

3) つながる図書館・ささえあう図書館ー公共図書館から見た大学図書館の世界

開催日時：2016年6月19日(日)13:30-16:30

会場：キャンパスプラザ京都 第1会議室

講師：岡本 真氏：アカデミック・リソース・ガイド

参加費：大図研会員は無料（非会員は500円）

参加者：41名

参加者の声：図書館が設置される理由等（人口減少、稼ぐ公共等）背景を考えながら、  
こういった話を聴くことは、通常の図書館関連の講演を聴くのと違い、  
面白かった。

富山市立図書館本館の取組みの事が詳しく聞けてとても興味深かった。  
自分で抱えていた問題に対して、本質的な意味でのアプローチへの気づきを  
沢山頂きました。

今年度の利用者アンケートは引き継いだものとかかなり内容を変えて行きたい!!と決意しました。

普段公共図書館に触れる事が無いので、大変参考になりました。

公共図書館の現状を知る事ができて良かったです。

館種を問わず運営上使える知識だと感じましたので、今後の業務にぜひ活かしたい。

(2) 支部報

2015年度刊行分につきましては、発行期日の遅れが生じた号もありましたが、計画的発行に努めました。新入会員が入会するたびに「新入会員挨拶」を継続して掲載してきました。また、2015年度は臨時支部総会を開催したため、No.311に臨時総会の議案を掲載しました。2015年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.307 (2015/08/15 発行)

- ・大学図書館問題研究会京都支部第38回京都支部総会を開催いたしました
- ・大学図書館問題研究会京都支部第38回京都支部総会議案

2) 支部報 No.308 (2015/10/15 発行)

- ・大学図書館問題研究会京都支部 Webサイトをリニューアルしました
- ・小特集：大図研京都ワンディセミナー「電子ジャーナルはこれからどこへ向かうのか？  
～深田氏・林氏による学術情報動向に関する講演会～」参加報告
  - ・学術情報流通のこれまで・いま・これから(藤江 雄太郎)
  - ・歴史は戻せないー深田氏の言葉の重み(中村 健)
  - ・学術情報流通の未来について考える一日(塩野 真弓)
- ・小特集：大図研京都ワンディセミナー「学びの空間「キャンパス全体がラーニング・プレイス (Commons)」 の実践」参加報告

- ・ ラーニング・プレイスと「ありえないはありえない」の射程(齊藤 涼)
- ・ 進化し多様化するキャンパス(加川 みどり)

3) 支部報 No.309 (2015/12/15 発行)

- ・ 大学図書館問題研究会京都支部忘年会を開催しました
- ・ 支部委員 挨拶
- ・ 新入会員 挨拶(角野 容子)

4) 支部報 No.310 (2016/02/15 発行)

- ・ 大学図書館問題研究会近畿 3 支部合同例会開催のお知らせ
- ・ 連続企画：私の図書館紹介します 6 「京都大学附属図書館宇治分館」(今野 創祐)
- ・ 新入会員 挨拶(内田 栞)
- ・ 新入会員 挨拶(神村 茉里)
- ・ 新入会員 挨拶(十倉 史帆)
- ・ 新入会員 挨拶(若狭 あや)

5) 支部報 No.311 (2016/04/15 発行)

- ・ 大学図書館問題研究会京都支部 臨時京都支部総会のご案内
- ・ 大学図書館問題研究会京都支部 臨時京都支部総会議案
- ・ 異動に伴うアドレス等変更のご連絡のお願い

6) 支部報 No.312 (2016/06/15 発行)

- ・ 大学図書館問題研究会京都地域グループ第 39 回京都地域グループ総会のご案内
- ・ 大学図書館問題研究会京都地域グループ第 39 回京都地域グループ総会議案
- ・ 京都地域グループ委員の募集について

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。2011 年度に開始した支部報電子版は創刊号から最新号まで、一部許諾の得られなかった記事を除き、全て掲載しています。また、2015 年 11 月 1 日に Web サイトのリニューアルを行いました。CSS フレームワークの bootstrap3 を使用することで、スマートフォンやタブレットなどのマルチデバイスへの対応を可能とし、以前よりも閲覧しやすいサイトへと生まれ変わりました。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.190 (2015 年 7 月 2 日) から no.220 (2016 年 6 月 17 日) を発行しました。支部活動をお知らせするものとして、支部委員会議事録、支部企画案内を紹介する記事を配信しています。

また、図書館関係のイベント案内を月 1 回に配信していますが、昨年引き続きその月に締切日があるイベント情報の掲載も継続しています。

さらに Twitter の活用を図り、435 アカウントのフォロワーを得ています。忘年会やワンディセミナーの告知、セミナー内容のツイートやそのまとめ作成、支部報発行の広報を行いました。

(4) 組織活動

69 名の支部会員の皆様に支えていただき活動いたしました。

支部委員より会員組織 WG に 1 名参加し、検討を継続しました。  
地域グループに移行するため、臨時総会を開催いたしました。  
7 月 1 日より京都地域グループに移行いたします。

#### (5) 財務

本部会費徴収 WG に 2 名参加し、新しい方式に会費徴収方法に移行いたしました。  
地域グループに移行するため、長期未納者に対して、本部に会員退会扱いのお願い(依頼)を行い、それ以外の未納本部会費を一括送金いたしました。

9 名分の未納本部会費 (2014 年 4 名分、2015 年 5 名分) を一括送金いたしました。

#### (6) 広報とデザイン

大図研京都ワンディセミナー「電子ジャーナルはこれからどこへ向かうのか? ~深田氏・林氏による学術情報動向に関する講演会~」、「学びの空間「キャンパス全体がラーニング・プレイス (Commons)」の実践」、「つながる図書館・ささえあう図書館—公共図書館から見た大学図書館の世界」について、ポスターの作成を担当しました。

昨年度は特定の支部委員に業務が集中するという問題がありましたが、今年度は、デザインに造詣の深い支部会員に力を貸してもらうことで、この問題を解消し、大変洗練されたデザインのチラシを作成することができました。

## 2. 2016 年度活動方針

### (1) 研究交流活動

- ・会員の発表の場としての研究交流活動の企画に積極的に取り組みます。
- ・会員の知的交流の場であると共に非会員への広報でもあるという意味を再認識し、組織拡大への貢献も大きな柱といたします。
- ・勉強会的な企画だけでなく、交流を軸とした企画も検討し、年 4 回程度は開催できるようにします。

### (2) グループ報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。今後も、会員に「発表の場を提供する」という目標のもと、会員間での情報共有が進むためのきっかけを提供することを目指し、引き続き努力していきます。

### (3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

Web サイトを随時更新することで、京都地域グループが主催・共催する種々の活動情報や電子化された支部報記事を迅速に提供します。その他のコンテンツ拡充についても継続して検討していきます。

また、メールマガジンについて、より読まれるような内容にする工夫を継続するとともに、配信のタイミングについて検討していきます。同時に、メーリングリスト"ゆりかもめ"についてもその目的である「会員相互の親睦と交流を盛んにすること」の達成を目

指し、会員による自由な投稿を促進するよう検討を重ねます。

さらに広報活動の一環として Twitter アカウントの積極的活用を継続します。

#### (4) 組織活動

新たに京都地域研究グループとして活動を行い、地域グループの持つ魅力を認識し、高め、入会者が大図研京都地域グループに在籍していることにより一層価値を見いだせるような活動を行います。

本部常任委員参加だけでなく、新たに設置予定の特別な常任委員にも参加する予定です。

#### (5) 財務

今後も活発な研究企画実施のため、研究企画費を計上します。

ただし、地域グループ移行により財務基盤が脆弱化いたしますので経費節減が必要になります。

本部に一括送金いたしました未納本部会費について支部未納対象者に対して督促を継続いたします。

#### (6) 広報とデザイン

次年度も引き続き、近年活発に行っているセミナー等において、チラシ作成等の広報活動を効果的に行います。